

【全体概要】

本県の特色である交雑牛肥育経営において、交雑種雌牛の繁殖利用への関心が高まっているが、取組事例が少ない。その課題及び解決に向けた調査、分析を実施した。繁殖雌牛及び子牛の飼養管理を明らかにするとともに、交雑種雌牛の繁殖から肥育にかけての飼養管理マニュアル及び交雑種の経産牛肉の利用拡大のための啓発資料を作成した。

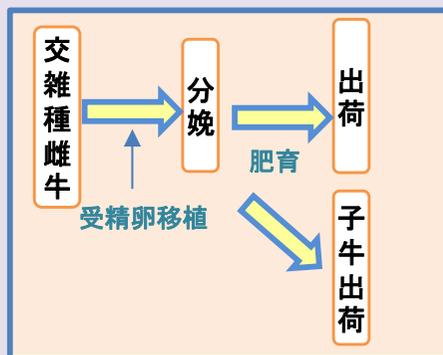
新品種・新技術等の概要

○交雑種雌牛の繁殖利用

通常、交雑種雌牛は未経産のまま肥育されている。繁殖機能を有効活用し、受精卵移植により和牛子牛を生産、販売することにより、収益性向上を図る技術。

分娩した交雑種雌牛は、肥育を行い、出荷する。

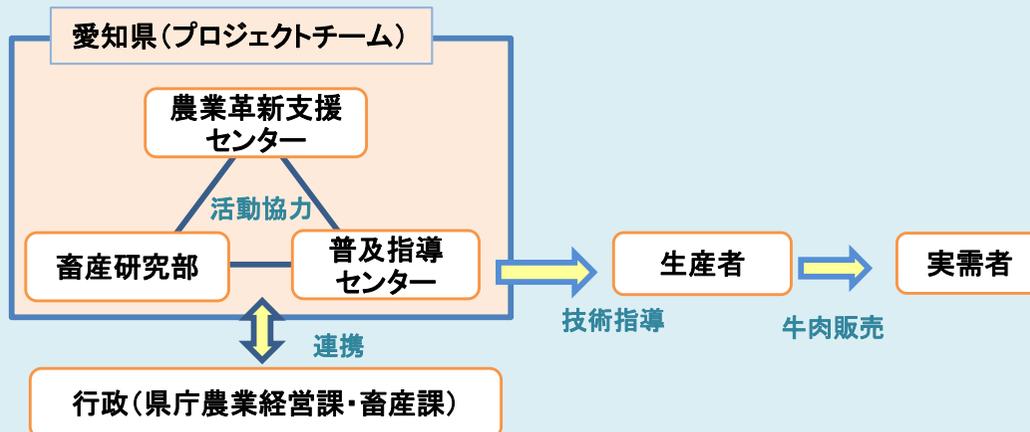
※交雑種：一般的には、ホルスタイン種雌牛と黒毛和種雄牛との間で生まれた牛で、肉用牛として用いられる。



主な取組内容

- 交雑種雌牛の繁殖利用と繁殖利用後の肥育に向けた飼養管理技術確立
- 交雑種雌牛の繁殖利用に向けた意向調査
- 繁殖利用した交雑種雌牛の肥育による牛肉販売力強化
- 生産された黒毛和種産子の市場性向上
- 交雑種雌牛繁殖利用の経済性評価
- 交雑種雌牛繁殖利用技術の普及に向けた資料作成

実施体制図



実績と今後の展開

- 交雑種雌牛の繁殖利用に関して、調査したいずれの事例においても分娩事故等なく適正な管理ができていたことが明らかになった。
- 交雑種雌牛の繁殖利用において、重要である和牛産子の飼養管理について、管理指標及び適正な管理が明らかになった。
- 交雑種雌牛の繁殖利用に関心を持つ農家が現れ、新たに取り組みを開始した農家もある。(2戸(R2)→5戸(R3))
- 繁殖利用と肥育を効率的に行うための飼養管理マニュアル及び交雑種経産牛肉の普及拡大に向けた啓発資料を利用し、普及を図る。
- 交雑種雌牛経産牛肉の安定した肉質生産、供給体制を作るとともに、市場価値を高めることが今後の課題である。